

## 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議事録

平成28年度第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議事録

日 時 平成28年11月1日(火) 18時から  
場 所 山陽小野田市役所 3階 第2委員会室  
出席者 委 員 山本(普)委員長、河口委員、河野委員、林委員、  
平野委員、山本(克)委員  
事務局 大田成長戦略室長、大谷成長戦略室副室長、山縣主  
事

(出席委員は6名中6名であるため過半数に達しており、山陽小野田市公立大学法人評価委員会条例第5条第3項の規定により本委員会は成立している。)

委 員 議題に入る前に事務局から何かあるか。  
事務局 まず、評価委員会の役割について、確認の意味で今一度ご説明  
させて頂きたい。中期目標の制定・変更、中期計画の認可、業  
務方法書の認可、については今までの会議でご意見を頂いた。  
今後ご審議いただくのは、各事業年度の業務の実績、中期目標  
期間の業務の実績の各評価についてである。また、来年6月末  
までに大学から提出される財務諸表の承認についてもご意見  
を頂くようになる。各事業年度の業務実績の評価については  
地方独立行政法人法第28条に、中期目標期間の業務実績の  
評価については第30条に定められており、これからは、これ  
らの評価基準についてご審議いただくことになる。また、「法  
人の評価」と「大学の評価」は、それぞれ根拠となる法律が異  
なり、「法人の評価」は地方独立行政法人法、「大学の評価」は

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

学校教育法をもとに評価を行っていく。評価委員会の皆様にしていただくのは「法人の評価」になる。「大学の評価」については認証評価機関が7年以内に1度行うことになっている。そして、業務の実績報告書の評価結果については、議会に報告することが法で定められているので、必ず9月に、というわけではないが、9月議会を目安にしていただきたい。

委員 事務局から評価委員会の役割についてご説明いただいたが、事前にお送りいただいた、「今後の評価委員会開催日程・流れ(案)」についても詳しくご説明していただきたい。

事務局 はい。「今後の評価委員会開催日程・流れ(案)」について説明する。6月末に法人から実績報告書・自己評価などが提出され、その後7月中旬に法人のヒアリングを行う。そして8月上旬に評価書を確定したいと考えている。

委員 質問だが、これは法人が出された評価書に対して評価委員会がまた新しく評価書を作るのか、それとも法人の評価書を修正するのか。

事務局 大学が自己評価をされるので、その自己評価が適正であるかということの評価していただくことになる。一から資料を見て評価するのではなく、大学の自己評価を評価していただくようになる。

委員 評価書を議会に提出するときにはどのような形式になるのか。

事務局 大学からの実績評価書と自己点検表、それに対しての評価委員会の意見書を添えて提出することになる。

委員 その内容に対して、議会が審議するのではないのか。

事務局 議会の審議事項ではなく報告事項である。実績報告書を承認

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

する、ということではなくあくまで報告の範疇なので、それを議会が認める・認めないということではない。ただ、今まで前例はないが、議会が何かしら意見を出そうと考えれば意見書という形で意見が出るかもしれない。

委員 意見書が出た場合はどうするのか。

事務局 差し戻してもう一度自己点検をやり直すように言えるのは市長だけである。

委員 我々は大学の自己評価をもとに、たとえば前橋工科大学でいえば8ページからのような評価をしていく、と捉えているのだが。よろしいか。

事務局 はい。

委員 大学の自己評価は市長に出すのか。

事務局 いいえ。大学の自己評価は評価委員会に提出され、評価委員会が市長に報告する。そして法人に通知、あまりにも改善の余地があるのなら、改善勧告を法人に出すことができる。

委員 評価に当たって、数値的なものが出てくるのなら評価しやすいが、抽象的な内容では評価しにくい。財務的な資料をもう少し揃えてもらえると評価がしやすいと思う。

事務局 監査のようなイメージではなく、年度計画をどのくらい実施したか、という確認をしていただきたい。大学から出てくる自己点検表の点検をしていただきたいのである。

委員 その自己評価で出てくる項目は何項目あるのか。

事務局 80項目である。

委員 事務局が言うとおり、大学が自己評価したものを評価する、ということである。それを評価書にまとめて、市長に提出、大学に通知する。

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

- 事務局 大学が自己評価したものを評価していただくのだが、確かに他大学と比べても「検討する」といった内容が多いため、「検討した」とすればマルなのか、どこまで検討したかという内容まで考えていくのか、ということである。
- 委員 先ほどのスケジュールを見ると、8月には評価書を作成する時間しかない。ワークする時間は実質1ヶ月しかない。
- 委員 自己評価がどの大学からも出ているが、山口東京理科大学からはどの程度のものが提出されるのか。私たちが「このように提出してほしい」というような要望を出せるのか。
- 事務局 実績報告書について、どういう内容でどこまでやったかということをごきちっと用意してほしい、ということをご事前に通知していただければ用意してくるはずである。
- 委員 それでは、他大学がどのように評価しているかお話をさせていただきたい。
- 事務局 事前に送付した5つの大学の評価方法についてご説明してもよろしいか。
- 委員 お願いします。それでは、3分休憩を挟んで再開する。

#### **議題1** 業務実績の評価に関する基本的な考え方について

##### 【事前送付資料、第4回当日配布資料①、②】

- 事務局 それでは、参考資料①～⑤について、各大学の特徴とともに説明させていただく。まず「参考資料①前橋工科大学」をご覧ください。前橋工科大学は、「年度業務実績評価の考え方について」という全2ページの資料により基本的な考え方から評価方法・基準が簡潔にまとめられている。前橋工科大学は実施要領などの細かな資料はなく、この基本的な考え方をもと

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

に評価を行っている。評価報告書については、最初に評価の考え方が記載され、次に記述式の全体評価、そして項目別評価、4段階評価とその理由が記述されている。法人の自己評価の表もあり、評価委員会の評価と比較できるようになっている。またその下には特筆すべき事項及び評価できる事項が記述されている。次に、「参考資料②北九州市立大学」をご覧いただきたい。「評価指針」と「評価実施要領」により、年度評価と中期目標期間評価について定めてある。具体的にどのような項目に分けて評価するのか、といったことも記載されている。評価結果には全体評価が記述式で1ページ、そして5段階の分野別評価とその理由が載っている。評価とともに中期計画や年度計画も並べて記載しているため、他大学と比較すると特に評価結果のボリュームが大きくなっている。そして、「参考資料③下関市立大学」をご覧いただきたい。こちらは「基本的考え方」には具体的な評価方法ではなく、評価委員会が今後どのような活動をするのか、ということが定められている。「評価実施要領」には、具体的な評価方法が記載されている。「評価結果書」は、まず年度計画記載の「小項目」ごとに4段階で評価し、それを踏まえて「大項目」を5段階で評価し、これら項目別評価を踏まえて全体評価を記述式で行っている。特徴としては、以前委員さんもおっしゃったように、大学専門用語に対しては米印で解説されている点が挙げられる。次に「参考資料④山口県立大学」をご覧いただきたい。こちらは、全5ページの「基本的な考え方」に細かな評価方法が記載されているパターンで、実施要領では評価項目、評価基準とその判断の目安まで細かく定められている。18ページの、表の下の

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

備考欄(2)には、年度計画の目標が「〇〇について検討する(取り組む)」といった数値目標でない場合にはどのように判断するか、ということも記載されている。評価の基準だけでなく、判断の目安まで細かく記載されている点が特徴である。23ページから134ページまでは、大学に提出してもらう年度評価報告書の形式、135ページからは評価委員会の評価結果書の形式が添付されている。実際の評価結果書には、評定概要の表が記載され、大項目ごとに特筆すべき長所や問題点が列挙されている。最後に総括表として、小項目と大項目の評点が表にまとめられている。次に、「参考資料⑤長岡造形大学」をご覧いただきたい。こちらは、「基本的な考え方」と「実施要領」により評価方法が定められている。他大学と同様に、「基本的な考え方」で評価の目的、おおまかなスケジュールや流れを示し、「実施要領」で評価項目や評価基準を表で細かく定めている。実際の評価書では、全体評価と大項目評価、事業単位・指標単位の項目に分かれており、評価理由と概況が記述されている。そして大学の中期計画・年度計画・大学自己評価の表に評価委員会の評価結果が付け足された表が記載されている。最後に、本日お配りした「2016.11.01開催参考資料①と②」をご覧いただきたい。こちらは国立大学評価委員会の評価方法と評価結果である。国立大学に対する評価は、全体評価と項目別評価である。86校の国立大学法人がこの評価方法に従って評価されており、5ページからは山口大学の評価結果になっており、記述式の全体評価と、項目別の評価と特筆事項が示されている。9ページからは、山口大学から提出された実績報告書である。参考資料②は国立大学法人の26年度

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

評価結果のまとめになっている。以上の各大学を見比べていただき、本委員会ではどのような評価形式で評価していくか御一考いただければと思う。

委員 国立大学の評価を出されると混乱するのだが。公立大学と何が違うのか。

事務局 国立大学は文部科学省の中に評価委員会が設置され、全国立大学を評価している。国立大学の例はあくまでも参考までにお示しした。

委員 説明の補足をしたいので、実績評価表をごらんいただきたい。どの大学も年度計画の項目ごとに評価している。それに対して評価委員会がどのような方法で評価しているか、ということだが、長岡造形大学・下関市立大学・前橋工科大学（参考資料①③⑤）は基本的に同じ方法で評価している。特に前橋工科大学と下関市立大学は全く同じ方法で、長岡造形大学は少し方法を変えている。たとえば18ページでは、事業単位評価結果と指標単位評価結果というように分けてあり、これは長岡造形大学の特徴である。指標単位評価結果は目標値が具体的に数値で挙げてあり、事業単位評価結果はそれ以外の文章で挙げてあるものである。そして前橋工科大学と下関市立大学には指標単位評価結果が無く、全て事業単位評価結果である。また、前橋工科大学8ページをご覧くださいと、法人評価の項目評価結果の割合をもとに評価委員会の評価を行っている。下関市立大学も同様である。長岡造形大学は法人の評価結果をさらに評価委員会が評価し、その割合をもとに評価結果を出している。一方、北九州市立大学・山口県立大学（参考資料②④）は評価方法が異なる。北九州市

#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

立大学は大学の自己評価に対して、ⅣまたはⅢの割合が9割以上でB、のような評価の出し方をしている。山口県立大学はさらに複雑で、各項目別評価で平均値を出して、その結果で5段階評価を行ったり、ウェイトをかけたりしている。以上の大学の中では、長岡造形大学のやり方がいいのではないかと考える。評価委員会が自己点検に対して評価委員の評価をしていく、というようなやり方である。山口東京理科大学には指標単位評価は無いと思うので、事業単位評価という形になると思う。

委員 私は「評価の目的」が根本だと思う。たとえば、長岡造形大学の1ページには「評価により、大学の継続的な質的向上を促進すること・評価を通じて社会への説明責任を果たすこと」と書いてある。私たち評価委員会において大切なのは、実際に大学がどのような状態で、どんなことをしているのかをきちっと説明できるかということ、評価を通じて大学の質的向上の促進ができることである。この評価の目的をもとにして、基本方針を共通理解して話し合うことが必要であると考えます。よって、この根本的な部分について話し合いたい。

委員 残り5回の評価委員会会議で、基本的な考え方、評価基準・方法などについて決めていかなければならない。

事務局 どの大学をベースに進めていくか、ということまで結論を出してほしい。そうすれば次回までに案を作ることができるので。

委員 今の事務局の意見はいかがか。ベースの大学を決めても良いか。

《反対意見が出されなかった》



#### 第4回山陽小野田市公立大学法人評価委員会会議議事録

委員 今回提出のあった大学では、長岡造形大学が良いと思うが、どうか。

委員 評価方法はあまり変えないほうが良い。オリジナリティはいらない。他大学と同じ評価方法でいいと思う。

《賛成の声あり》

委員 それでは、長岡造形大学をもとに、次回までに「業務実績の評価に関する基本的な考え方」と「実施要領」の案を作ってきてもらいたい。

委員 長岡造形大学7ページの「評価結果の活用・反映」という項目について、山口県立大学13ページの「評価結果の取扱い等」に記載されているような詳しいものがあると良いと思う。

委員 評価委員会の評価は評価委員全員の意見を尊重するため、各項目別に全評価委員の評価値の平均値を採用するように評価方法案を作成してほしい。

事務局 要は合議制を採るか独任制を採るかということだが、委員長が言われるのはそれぞれの意見を反映した独任制である。しかし、評価結果が6種類出るわけにはいかないので、独任制だが平均点をもって評価結果を作りましょう、ということである。ただ、一般的に市の審査会等では平均をとる場合、最高点と最低点を除外している。本委員会の場合は最高点と最低点を除外した残りの4人の方で平均をとるようになる。この方法が一番公平ではないかと考える。

事務局 みなさんに頂いた意見を反映しつつ案を作成して事前に送付する。次回会議ではその案をもとに協議していただきたい。次回会議は1月中旬から下旬を予定している。